



PGM 世界ジュニアゴルフ選手権 日本代表選抜大会

2019年3月30日（土） 西日本決勝・第1日 / 滋賀GC 大会結果のお知らせ

< PGM世界ジュニアゴルフ選手権日本代表選抜大会 西日本決勝大会 >

◇第1日 = 3月30日◇滋賀・滋賀GC（15-18歳の部男子6974ヤード、パー72ほかカテゴリー別）
◇出場154人◇曇りのち雨

< PGM世界ジュニアゴルフ選手権日本代表選抜大会 西日本決勝大会 第1日 概況 >

15-18歳の部男子は、蟬川泰果（宮城・東北福祉大1年）が1アンダー71をマークして、首位に立った。2打差で新井隆一（岐阜・中部学院1年）と亀井壮汰（香川・香川西高3年）が続いている。女子は益田世梨（岡山・岡山理科大付高2年）と杉浦愛梨（福井・福井工大付福井高1年）が2オーバー74で首位に並んだ。1打差で藤井美羽（愛知・千種台中3年）が追走している。

13-14歳の部では、男子が広山功喜（大阪・大池中3年）が2オーバー74で、2位の新井龍紀（愛知・西部中3年）に2打差をつけてトップに立った。同女子は左奈々（福岡・沖学園隆徳中1年）が3オーバー75で首位、1打差2位に井ノ下愛華（広島・松賀中1年）が続いている。

その他の部門では、11-12歳の部男子は西嶋元風（福岡・リンデンホール小学部6年）が76、女子は酒井理琴（大阪・淡路中1年）が75、9-10歳の部男子は石口寛樹（奈良・大正小4年）が81、女子は中山凜花（愛知・小幡北小5年）が76、7-8歳の部男子は櫻井煌大（滋賀・平田小3年）が79、女子は飯田柚月（千葉・金杉台小3年）が78で、それぞれ首位に立っている。

決勝大会は西ブロック各地区予選突破者と、昨年のIMG A世界ジュニアで今年のシード権を取れなかった選手が、決勝大会シード選手として出場している。2日間36ホールの合計ストロークで争い、15-18歳、13-14歳の部男女は各2人、11-12歳の部以下の男女各3部門は各1人が日本代表に選抜され、IMG A世界ジュニア（7月10～13日、米カリフォルニア州サンディエゴ）に出場する。

また、15-18歳の部男子1位に男子ツアー「HEIWA・PGM CHAMPIONSHIP」出場権、13-14歳の部男子1位に同大会の出場を争う「HEIWA・PGM Challenge II」出場権がそれぞれ与えられる。

（注）4月以降の進学校、新学年で表記しています。



写真：

上／15-18歳男子 蟬川泰果

下／15-18歳女子 益田世梨

©IJGA2019

＜PGM世界ジュニアゴルフ選手権日本代表選抜大会 西日本決勝大会＞

◇第1日◇15－18歳の部男子◇3月30日◇滋賀・滋賀GC（6974ヤード、パー72）

蟬川泰果（宮城・東北福祉大1年）が1アンダー71をマークして、首位に立った。「もったいないミスばかりだったんです。パー5でグリーン近くからの距離感が悪くて。もっと朝の練習で距離感の練習を多くした方がよかった」と反省を口にする。イーブンパーで折り返し、後半は14、15番連続バーディーや17番パー3で30センチにつけるなど3バーディー（2ボギー）を奪って、アンダーパーにした。4月から大学ゴルフの強豪校に進学する。すでに合宿にも参加した。「レベルが高い。自分だと、目標のスコアに行くと満足してしまうけど、先輩たちは『もっともっと』という気持ちが見える」と、早くも刺激を受けている。「最終日は周りの選手を見るより、自分がどれだけ伸ばせるかでやりたい」と、大学の先輩たちから得たものを生かしたい。

＜PGM世界ジュニアゴルフ選手権日本代表選抜大会 西日本決勝大会＞

◇第1日◇15－18歳の部女子◇3月30日◇滋賀・滋賀GC（6355ヤード、パー72）

益田世梨（岡山・岡山理科大付高2年）と杉浦愛梨（福井・福井工大付福井高1年）が2オーバー74で首位に並んだ。益田はインスタートの最終9番でグリーン左から30ヤードのチップインバーディーで上がった。前日まで春の全国高校ゴルフがあり、練習ラウンドができなかったため「グリーンが思ったより遅くて」と、前半はパッティングに苦しんだ。後半は慣れてきて3、5番でバーディーを奪うなど、アウトは1アンダーで回った。「最終日は今日のオーバー分を取り返したら、世界ジュニアに行けると思う」と意欲を見せた。昨年の世界ジュニア代表の杉浦は1つ年齢カテゴリーが上がっての挑戦。後半はショットに苦しんだが「2メートルぐらいのパーパットが4つ入った」と粘りのゴルフだった。昨年の世界ジュニアは19位と不満が残った。「世界ジュニアに出て、シード権を取りたい。最終日は風が強そうなので、今日みたいに手前から攻めることを徹底したい」と、2年連続世界代表を目指す。

＜PGM世界ジュニアゴルフ選手権日本代表選抜大会 西日本決勝大会＞

◇第1日◇13－14歳の部男子◇3月30日◇滋賀・滋賀GC（6974ヤード、パー72）

広山功喜（大阪・大池中3年）が2オーバー74で2位に2打差をつけて首位に立った。「ティーショットがずっとよかった」という前半をイーブンパー。後半は10番で奥のグリーンカラーから3パットしてボギー発進したが、直後11番で「10メートルぐらいのスネークラインでメチャ難しいと思って行ったら、タッチがよくて入った」とすぐに取り返し。17番で2段グリーンの下段に寄せ、上段のカップに寄せようとしたが「16番から雨が降ってきて遅くなっているのを忘れてしまって」と3メートルショート。そこから1メートルオーバーして返しも外し、痛恨の4パットのダブルボギー分がオーバーパーになった。「決勝大会には4回ぐらい出ているけど、ギリギリで負ける。今回は周りを意識しないで集中して楽しみたい」と初代表を狙う。

（注）4月以降の進学校、新学年で表記しています。



写真：左／13-14歳男子 広山功喜、右／15-18歳女子 杉浦愛梨 ©IJGA2019